

2013年10月5日

■本日の西陣コース

東向観音寺→北野天満宮(お土居)→千本釈迦堂大報恩寺→釘拔地藏石像寺→千本ゑんま堂引接寺→西陣界限→上七軒

- ①東向観音寺…北野天満宮参道脇の境内にある「土蜘蛛灯籠」は明治期に近くで行われた発掘調査のさい出たもので、「土蜘蛛」とは朝廷に恭順の意を示さなかったため迫害された古代日本の先住民。日本古代社会のマイノリティの存在に思いをはせる。
- ②北野天満宮…京都を代表する神社。菅原道真が太宰府に左遷され客死した後、「たたり」を思わせる出来事が相次いだことから、道真は神として祀られるようになった。天満宮の近くには豊臣秀吉の命で築かれた「お土居」の址も。京の歴史に思いをはせる。
- ③千本釈迦堂…本堂は洛中最古の木造建築物で国宝に指定されている。この本堂建築にまつわる逸話として「於亀」の伝説がある。棟梁の失敗を妻の於亀の知恵が救った美談だが、物語の背景には男尊女卑観が見え隠れする。古い日本の女性観に思いをはせる。
- ④釘拔地藏…古くからさまざまな痛苦を取り除く力があるとされ、今も参拝者が絶えない寺院。釘抜きと釘を貼り付けた絵馬が多数奉納されている。「苦抜き」が転じて「釘抜き」になったとも。病苦からの救いを地藏に求めてきた人々に思いをはせる。
- ⑤千本ゑんま堂…同寺の北には平安・鎌倉期に京の三大葬送地の一つとされた「蓮台野」が広がっていた。東山の「鳥辺野」における六道珍皇寺同様、冥界の入口の同寺には閻魔大王がいる。野辺送りの地に関わる被差別民の存在に思いをはせる。
- ⑥西陣…室町時代の「応仁の乱」のさい西軍が陣を構えたことから、一帯は西陣と呼ばれるようになった。京都の地場産業「西陣織」の産地。その下請けの織工として、大正末ごろから多くの朝鮮人がこの町で働いていた。「在日」の歴史の一端に目を向ける。
- ⑦五番町と上七軒…「糸偏の町」としてかつて隆盛を極めた西陣には二つの花街があった。下級花街と見なされていた五番町は、今はすっかり滅びた。一方、高級花街とされた上七軒は京都五花街の一つで、今も芸妓・舞妓がいる。上七軒を歩き、花街での労働に従事していた女性たちに思いをはせる。